

クマ剥ぎ対策の効果とその可能性について

東北森林管理局 企画調整課 林政推進係長 ○志田 有里絵
(元 置賜森林管理署)

置賜森林管理署 業務グループ 森林整備官 関 康春

1 課題を取り上げた背景

置賜森林管理署が管轄する山形県小国町のスギ人工林において、ツキノワグマによるクマ剥ぎ被害が拡大傾向にあり、持続可能な森林経営と公益的機能維持が危機的状況となっています。

持続可能な森林経営を継続するため、数種類の資材を用いて防護対策等を行い、より経済的で効果的な方法を検証し、民国連携した対策を進める必要があります。



スギ人工林内におけるクマ剥ぎ被害

2 取組の経過

小国町黒沢国有林のスギ人工林で、異なる2つの資材（生分解性伸縮性テープ、忌避剤付き生分解ネット）を用いた試験地と対照区を設定し、下記の調査を行いました。

- ① 功程調査：資材設置にかかる時間と人工、経費について調査
- ② 既存被害木調査：試験地内で既に被害を受けている立木の毎木調査
- ③ 新規被害木調査：5月中旬～9月下旬に新たな被害を受けた立木の調査
- ④ ツキノワグマ生息状況調査：センサーカメラ6台を設置し撮影

3 実行結果

①伸縮性テープは2人1組で20本/時の設置、92.3円/本（税込）、獣害対策ネットは2人1組で56本/時の設置、1,056円/本となりました。

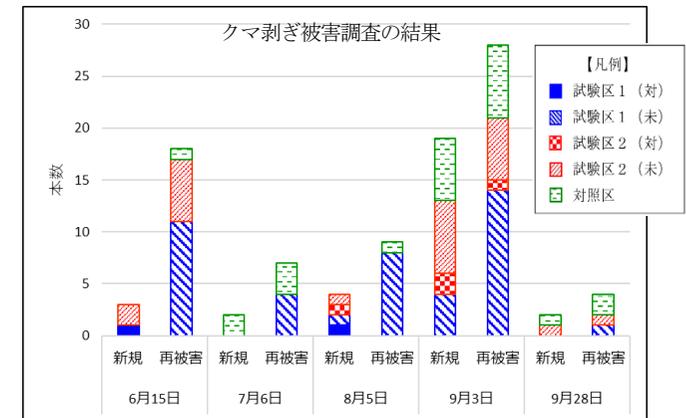
②小班の39.5%が被害を受けており、そのうち71%は枯木が全周囲樹皮剥ぎされている立木でした。被害木は胸高直径30cm以上が多い傾向にありましたが、幼齢木も被害に遭っていました。

③数本、資材が剥がされているものがありましたが、いたずら程度であり、

両資材における対策木への被害はほとんどありませんでした。また、一度被害を受けた立木は複数回被害を受ける傾向にありました。

④ツキノワグマは複数個体が確認され、

その他多くの野生生物も確認できました。



4 考察・今後の取組

試験地での調査の結果、今回使用した資材は、どちらもクマ剥ぎ対策として効果があることが分かりました。被害木の特徴としては、一度加害された立木は、複数回被害に遭う傾向にあることから、樹皮の内側が特に甘い木が狙われていると考えられます。また、被害部位の多くは斜面上部（山側）でしたが、これは山から下りてきて目につきやすく、楽な姿勢で樹皮剥ぎができるためではないかと推察しました。さらに、これまでは生長の良い優良木が加害される傾向にありましたが、幼齢木も被害に遭っていることから、今後は除伐等の対象となる立木も狙われる可能性が高いと考えられます。引き続き、定期調査を行うとともに、他の資材についても検証を行うほか、被害木の利活用方法、被害に遭いにくい樹種の選定など、より効率的で効果的な防護対策等の検討を行っていきます。